

地 理 歴 史

1 地理歴史科の教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

教科及び各科目の目標が十分達成されるよう、教育課程を編成する必要がある。

ア 日本人としての自覚をもち、国際社会の中で主体的に生きる資質や能力を育成する教育を担う教科であることに留意して、教育課程を編成する必要がある。

イ 網羅的で知識偏重の学習にならないようにするとともに、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、生徒の主体的な学習を一層重視した教育課程を編成する必要がある。

(2) 配慮すべき事項

ア 各科目の特質を生かして内容を厳選するとともに、各科目で主題学習による内容を工夫すること。

イ 各科目内で内容を選択して学習する仕組みを一層拡充し、重点を置いて学習できるように工夫すること。

ウ 学び方を学ぶ学習の充実や課題解決的な学習を一層充実して、問題解決的な能力の育成を図ること。

エ 中学校社会科の学習の成果を十分踏まえるとともに、地理歴史科の各科目及び公民科をはじめとする他教科などとの関連に留意すること。

(3) 特色ある教育課程の編成

ア 自ら学び、自ら考える力を育成するため、「総合的な学習の時間」で育てる資質や能力、態度などを教科の学習に生かすとともに、教科で学んだ成果が「総合的な学習の時間」で活用できるよう、創意工夫を生かすことが大切である。

イ 地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成を行う際には、学習指導要領に示された6科目以外に、学校設定科目を設置するなどの工夫を行うことも大切である。

2 指導計画と内容の取扱い

(1) 指導計画作成上の留意点

ア 各科目共通

(ア) 地理歴史科の目標を達成するため、教科全体として調和のとれた指導が適切に行われるよう留意する必要がある。

(イ) 特定の項目に偏らないように、授業時数の配分を工夫する。

イ 世界史A・世界史B

(ア) 世界史Aの(3)のオ・カ、世界史Bの「(1)世界史への扉」及び(5)のエ・オ・カについては、主題学習を指導計画の中に明確に位置付ける。

(イ) 作業的、体験的な学習や、生徒が主体的に取り組む様々な形態の学習活動を積極的に指導計画の中に位置付けるよう配慮する。

ウ 日本史A・日本史B

- (ア) 日本史Aにおいては「(1) 歴史と生活」を、日本史Bにおいては「(1) 歴史の考察」を指導計画に適切に位置付け、歴史への関心を高めるとともに歴史的な見方や考え方をより深く身に付けさせるようにする。
- (イ) 作業的、体験的な学習を重視し、生徒の主体的な活動を取り入れた学習形態を積極的に指導計画の中に位置付けるよう配慮する。

エ 地理A・地理B

- (ア) 地理Aの大項目の(2)は大項目の(1)の学習成果を、地理Bの大項目(3)は大項目(1)及び(2)の学習成果を活用するように考慮して各項目が配置されていることから、科目の目標の達成を目指した指導の順序性に留意すること。また、中項目を他の大項目に移して指導することは避ける必要がある。
- (イ) 作業的、体験的な学習を取り入れ、地理的な見方や考え方、地理的技能の系統的・継続的な指導に配慮する。

(2) 内容の取扱い

ア 各科目共通

- (ア) 基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するものとし、細かな事象や高度な事項・事柄には深入りしない。
- (イ) 各科目の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮することが求められている。そのために、様々な学習活動を取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して学習の効果を高めるよう工夫する必要がある。

イ 世界史A・世界史B

- (ア) 世界史Aの(1)のアからエまでは諸地域世界の特質を構造的視野から把握させ、個々の地域を通史的に扱わないようにし、世界史Bの(4)・(5)は広い視野から世界に動きをとらえ、各国史別の扱いにならないようにするなど、内容の重点化を図る。
- (イ) 世界の歴史を我が国の歴史と関連付けながら理解させるために、世界の歴史における日本の位置付けを明確にする。

ウ 日本史A・日本史B

- (ア) 我が国の歴史と文化を、各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から理解させることを重視する。
- (イ) 我が国の文化と伝統の特色に関する指導については、それを構成する様々な要因を系統的にかつ幅広い視野に立って総合的に考察させるようにする。

エ 地理A・地理B

- (ア) 地域性を追求する過程で、政治、経済、自然科学的な事象についても必要に応じて取り扱うが、それらは地域性を理解するために必要な範囲にとどめる。
- (イ) 現代世界の動向や地域の変容に着目し、歴史的背景を踏まえて、各地域の地域性を追求することを重視する。
- (ウ) 各項目の中でできるだけ日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させるようにする。

3 指導計画の作成

科目「世界史B」の指導計画（例）

学期	月	週数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定 時数	留意事項										
1	4	3	(1) 世界史への扉	ア 世界史における時間と空間 イ 日常生活に見る世界史 ウ 世界史と日本史とのつながり	・時計、暦、世界地図、都市図などから適切な事例を取り上げて、その変遷や意義を追究させる。 ・衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を追究させる。 ・日本と世界の接触・交流にかかわる人、物、技術、文化などから適切な事例を取り上げて、接触・交流の具体的様相を追究させる。	○人々の時間意識や空間意識が時代や地域により異なることに気付かせる。 ○日常生活からも世界史がとらえられることに気付かせる。 ○日本列島の歴史と世界史との密接なつながりに気付かせる。	7	身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。 (ア、イ、ウから二つ程度選択)									
			5	3	(2) 諸地域世界世界の形成	ア 西アジア・地中海世界 イ 南アジア世界の形成 ウ 東アジア・内陸アジア世界の形成	・西アジア・地中海世界の風土・オリエント文明の盛衰・イラン人の活動・エウゲ文明・ギリシア・ローマ文明 ・南アジアの風土・インダス文明・アーリヤ人の進入以後文化、社会、国家の発展 ・東アジア・内陸アジアの風土・中華文明の起源と秦・漢帝国・遊牧国家の動向・唐帝国と東アジア諸民族の活動	○西アジア・地中海世界の特徴を把握させる。 ○南アジア世界の形成過程を把握させる。 ○日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。	11 6 8	人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。							
					6	4	(3) 諸地域世界世界の交流と再編	ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と変動 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界	・アラブ人とイスラーム帝国の発展・トルコ系民族の活動・アフリカ・南アジアのイスラーム化 ・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開・西ヨーロッパの封建社会・都市の発達と王権の伸長 ・契丹・女真と宋の抗争 ・モンゴル帝国の興亡と諸地域世界や日本の変動		○イスラーム世界の形成、拡大の過程を把握させる。 ○キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を把握させる。 ○内陸アジア諸民族がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割を把握させる。	7 9 7					
	7	2					2	(4) 諸地域間世界の結合と変容	ア アジア諸地域世界の繁栄と成熟 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ ヨーロッパ・アメリカの変革と国民形成 エ 世界市場の形成とアジア諸国 オ 帝国主義と世界の変容		・明・清帝国と朝鮮や日本との関係・東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向 ・ルネサンスと宗教改革・新航路の開拓、主権国家体制の成立・大西洋貿易 ・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国独立など、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革 ・世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革 ・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応	○16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特徴を理解させる。 ○16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。 ○産業社会と国民国家の形成を理解させる。 ○19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解させる。 ○19世紀後期から20世紀初期の世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解させる。	7 11 10 6 7	アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。			
			8	4	3	(5) 地球世界の形成			ア 二つの大戦と世界 イ 米ソ冷戦と第三勢力 ウ 冷戦の終結と地球社会の到来 エ 国際対立と国際協調 オ 科学技術の発達と現代文明 カ これからの世界と日本	・二つの大戦と総力戦・ロシア革命とソヴィエト連邦の成立・大衆社会の出現と全体主義・世界恐慌と資本主義の変容・アジアの民族運動 など ・米ソ冷戦の展開 ・アジア・アフリカ諸国の独立と戦争・平和共存の模索と多極化と進展 ・市場経済の世界化 ・東欧諸国の民主化と冷戦と終結 ・ソヴィエト連邦の解体 ・アジア経済の急成長 ・地域統合の進展 など ・核兵器問題 ・人種・民族問題 ・第二次世界大戦後の主要な国際紛争 など ・情報化 ・先端技術の発達 ・環境問題 など ・国際政治 ・世界経済 ・現代文明 など	○20世紀前半の世界の動向と社会の特徴を理解させる。 ○冷戦期の世界の動向を理解させる。 ○1970年代以降の日本の動向を理解させる。 ○現代の国際問題を歴史的観点から追究させ、国際協調の意義と課題を考察させる。 ○歴史的観点から追究させ、科学技術と現代文明について考察させる。 ○人類の当面する課題を歴史的観点から追究させ、これからの世界と日本を展望させる。	12 9 8 3 3 3	科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特徴を考察させ、未来を展望させる。				
									9	4	2	2			2	2	2
	11	4	2	2	2												
						12	3	2	2	2							
	1	2	2	2	2												
						2	2	2	2	2							
	3	2	2	2	2												
計						35	134										

(配当時間 134時間+ガイダンス1時間+考査5時間=140時間)

科目「日本史B」の指導計画(例)

学期	月	週数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
1	4	3	(1) 歴史考の察 ア 歴史と資料① (7) 資料を読む	・井上靖の「おろしお国酔夢譚」を読ませた後に、桂川雨周の「北桂聞略」を説明	・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解させる。	2	・歴史を考察する基本的な方法を理解させる。
			(2) 原始・文化と古代の東アジア イ 古代国家と形成と東アジア ウ 古代国家の推移と社会の変化	・自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化 ・国家の形成と律令体制の確立の過程 ・隋、唐など東アジア世界との交流 ・東アジア世界との関係の変化 ・荘園、公領の動きや武士の台頭などの地方の動向	・旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代に社会について理解させる。 ・古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色について理解させる。 ・古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解させる。	17	・旧石器文化の時代から平安時代までを取り扱い、日本列島の原始・古代の社会と文化について、東アジア世界の動きとも関連付けて理解させる。
	5	3	(1) 歴史考の察 イ 歴史の追究② (4) 日本列島の地域的差異	・「北海道と環日本海地域」 古代から中世までの北海道史と、環日本海地域との交流	・北海道の歴史と文化を、日本の文化と伝統的特性、地理的条件とかかわらせて追究させる。	3	・歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。
			(3) 中世と社会 ア 武家政権の成立 イ 武家政権の展開と社会の変化	・武士の土地支配と公武関係 ・宋、元とのかかわり ・日本の諸地域の動向 ・日明貿易など東アジア世界との交流 ・庶民の台頭	・武家政権の形成過程と鎌倉仏教など文化に見られる新しい気運について理解させる。 ・産業経済の発展や下克上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向について理解させる。	16	・武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連付けて理解させる。
	6	3	(1) 歴史考の察 イ 歴史の追究② (7) 日本人の生活と信仰	・「服装の変化と社会的地位の変遷」 各時代における服装の変化と時代の推移	・日本人の生活様式の推移について追究させる。	4	・歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。
			(4) 近世社会と国際関係 ア 織豊政権と幕藩体制の形成 イ 産業経済の発展と都市や村落の文化 ウ 国際環境の変化と幕藩体制の動揺	・ヨーロッパ世界との接触とその影響 ・鎖国とその後への対外関係 ・支配体制と身分制度や儒学の役割 ・幕藩体制下の経済機構や交通、技術の発展 ・都市の繁栄 ・欧米諸国のアジアへの進出 ・学問、思想及び産業の新たな展開	・織豊政権、幕藩体制の特質について理解させる。 ・農業や商工業の発展及び町人文化の形成、農山漁村の生活文化について理解させる。 ・幕藩体制の動揺と近代文化の基盤の形成について理解させる。	20	・織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際環境の変化とその影響にも触れながら理解させる。
	2	8	2	(1) 歴史考の察 ウ 地域社会の歴史と文化	・「北前船から鎌倉殿まで」 近世から現代までの北海道と本州のかかわり	・本州との交易や漁業について栄えた地域の歴史と文化を、自然条件や経済的な諸条件と関連付けて考察させる。	4
(5) 近代日本とアジア ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代国家				・文明開化など欧米の文化、思想の影響や国際環境の変化 ・条約改正 ・日清、日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移 ・国民生活の向上と社会問題の発生 ・学問の発展や教育制度の拡充	・開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代化の推進について考察させる。 ・我が国の立憲国家としての展開について考察させる。 ・近代産業の発展と近代文化の特色について考察させる。	22	・開国、幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。
9		4	(1) 歴史考の察 ア 歴史と資料② (4) 資料にふれる	・「小樽の歴史」 小樽運河の埋め立て計画と保存運動を通して、文化財保護と観光開発を考える	・地域文化遺産について関心を高め、文化財保護の重要性について理解させる。	4	・日本史学習に対する関心を高め、文化財保護の意義を理解させる。
			(6) 両世界大戦と日本 ア 第一次世界大戦と日本の経済 イ 政党政治の発展と大衆文化の形成 ウ 第二次世界大戦と日本	・国際社会の中の日本の立場 ・都市の発展と大衆文化の成立 ・国際社会の動向 ・国内政治と経済の動揺 ・アジア近隣諸国との関係	・第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。 ・政党の役割と政治や社会運動の動向及び文化の特色について考察させる。 ・対外政策の推移と戦時体制の強化など第二次世界大戦と日本とのかかわりについて考察させる。	22	・第二次世界大戦の集結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。
3		1	2	(7) 第二次世界大戦後の日本と世界 ア 戦後政治の動向と国際社会 イ 経済の発展と国民生活	・第二次世界大戦後の国際関係の推移 ・生活意識や価値観の変化	・占領対策と諸改革、新憲法の設立、平和条約と独立など我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立についての考察させる。 ・戦後の経済復興、技術革新と高度経済成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上について考察させる。 ・現代世界の動向と日本の課題及び役割について考察させる。	20
	ウ 現在の日本と世界			・国際理解の推進と日本文化の特色 ・世界の中の日本の立場や我が国の国際貢献の拡大			
	3	2					
計		35				134	

(配当時間 134時間+ガイダンス1時間+考査5時間=140時間)

科目「地理A」の指導計画（例）

学期	月	週数	単元(項目)	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項				
1	4	3	(1) 現代世界の特色と地理的技能	ア 球面上の世界と地域構成	1 海洋と大陸 2 地球儀と地図 3 方位と時差 4 日本の領域	・大陸と海洋の現状、各国の位置関係や方位、時差などを日本の位置や領域との関係でとらえさせる。	8	・地球儀などの地図の比較、略地図の描写などの作業的・体験的な学習を取り入れるように配慮する。			
	5	3		イ 結びつく現代世界	1 交通・通信の発達 2 人や物の国際間の移動	・諸地域間の相対的な位置や距離関係が変化とともに、地理的分野が拡大し、国家間の結合、国際貿易が活発化・複雑化していることをとらえさせる。			8	・異なる年の主題図や統計などを比較的考察させ、地理情報の活用の方法が身に付くように配慮する。	
	6	4		ウ 多様さを増す人間行動と現代世界	1 消費や余暇に関する行動 2 世界の観光 3 地理的情報活用	・消費や余暇に見られる世界の人々の多様化むする行動を地理的な環境と関連付けてとらえさせる。					9
	7	2			エ 身近な地域の国際化の進展	1 身近な地域の国際化 2 地域調査			・地域調査の手法等を理解させるとともに、身近な地域の国際化の進展や日本と世界の結びつきの様子をとらえさせる。	10	
	8	2	(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題	ア 世界諸地域の生活・文化の地理的考察		1 諸地域の生活・文化と環境 (1) 諸地域の生活・文化 (2) 異文化への理解	・世界の諸地域の生活・文化の特色を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせ、異文化を理解し、尊重することの必要性について考察させる。	8	・世界の諸地域にみられる生活や文化を概観し、その地域の特色を、地理的環境や歴史、民族性と関連付けて追究させるとともに、国際化や情報化の進展等による、他の地域からの影響についても留意させる。		
	9	4				2 近隣諸国の生活・文化と日本 (1) 東アジアの国々 (2) 東南アジアの国々	・近隣諸国の生活や文化における日本との共通性や異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせ、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することの必要性を考察させる。				9
	10	4		イ 地球的課題の地理的考察	1 地域から見た地球的課題 (1) 環境問題と人類 (2) 資源・エネルギー問題と人類 (3) 人口問題と人類		・地球的課題は、地域を超えた課題であるとともに、地域性があることを理解させる。また、その解決のためには、各国の取組とともに、地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察させる。	12	・地球的課題に関する地理的事象を資料等から見出し、課題を設定して地球的及び地域的視野から調査、考察するなどの学習活動を重視する。		
11	4	3				2	2				
12	3		2								
1	2			計	35			64			
2	2										
3	2										

(配当時間 64時間+ガイダンス1時間+考査5時間=70時間)

4 質疑応答

問1 地理歴史科と総合的な学習の時間とは、どのような関連があるのか。

各教科等と総合的な学習の時間との相互補完的な関係を踏まえて、各学校の教育課程におけるそれぞれの位置付けを明確にし、地理歴史科各科目と総合的な学習の時間との有機的な関連を重視し、効果的な指導を進める必要がある。

地理歴史科の目標に示されている「国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質」を育むことは、総合的な学習の時間のねらいとしている「自己の在り方生き方を考えること」と深い関係がある。また、総合的な学習の時間の学習活動の例として示されている国際理解や環境、福祉・健康などの課題は、地理歴史科の学習内容との関連性が強い。

この関連性を生かすため、総合的な学習の時間においては、地理歴史科で学ぶ知識等を実感をもって理解し、他教科・科目等で身に付けた知識や技能等を生かし、より深め、総合的に働く機会を設けることが望ましい。また、地理歴史科の学習においては、総合的な学習の時間で身に付けた力を生かして学ぶことができるよう、学習内容や指導方法について工夫することが重要である。

一方で、自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決する力は、地理歴史科各科目の指導においても積極的に育成することが求められている。したがって、地理歴史科各科目の指導の在り方の改善を進め、主題を追究する学習の充実を図るとともに、作業的・体験的な学習や、調べたことを発表したりまとめたりする活動などを取り入れて、学び方を学ぶ学習を充実させることが大切である。

なお、地理歴史科における学習指導は、あくまでも地理歴史科及び各科目の目標を達成するためのものであり、総合的な学習の時間のねらいの下に行われる活動そのものではないので、地理歴史科における主題学習等を総合的な学習の時間とすることはできないことに留意する必要がある。

問2 地理歴史科の学校設定科目を設ける際に、どのような点に留意すべきか。

地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じて、より一層特色ある教育課程の編成を可能にするため、学校設定科目を設けることができる。

このねらいと地理歴史科の目標に基づいて学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等を定めることが必要である。その際、関係する各科目の内容との整合性に十分配慮しなければならない。また、学校設定科目の指導に当たっては、地域の専門家など外部の協力を得ることも効果的である。

なお、地理歴史科に属する学校設定科目については、「地域研究」「郷土文化」「郷土史」など、地域に根ざした科目やより幅の広い学習をするための科目、補完的な学習をするための科目、より深く高度に学習するための科目など様々な科目が考えられるが、北海道立高等学校教育課程編成基準（平成12年度版「高等学校新教育課程編成の手引き」p.136～）には、標準例として「地域研究」「日本文化」「現代史」「日本史演習」が示されている。